



## 「防災の日」にあたり

9月1日は、「防災の日」です。当日、隣の横網町公園の東京都慰霊堂で「遭難者 秋季慰霊大法要」が行われます。その対象は関東大震災と第二次世界大戦での都内戦災の遭難者・身元不明者です。

東京都慰霊堂や東京都復興記念館が隣の横網町公園にある理由ですが、1923年9月1日の関東大震災の時、現在慰霊堂のある場所は、当時被服廠（ひふくしょう）といって軍服を作る場所でしたが、ちょうど移転し、建物は壊され広大な土地が広がっていました。（現在の江戸東京博物館あたりまで）そして被災した人々が、避難して集まってきたところに火が回り「火災旋風」と呼ばれる火の竜巻が起こり、多くの方が犠牲になりました。この1か所で約3万8千人が亡くなったといわれています。よって犠牲者の多かった横網町公園に東京都慰霊堂が1930年に、東京都復興記念館が1931年に建設されました。



現在学校のある場所には、当時安田家の人々が住んでいましたが、学園の創設に尽力された方がこの震災で亡くなっています。安田学園（前身の東京保善商業学校）は、神田で1923年4月に開校し、新校舎の計画も進んでいましたが、校舎が震災で損壊してしまったため、安田家と相談し現在の場所に、翌年の1924年に移転したのです。安田学園が現在の地にあるのは皮肉にも関東大震災があったからなのです。この場所にある学校の生徒だからこそ、このような歴史を知って高い防災意識を持ってほしいと思います。



焼失した安田邸



完成した本校舎（1932年）

皆さんもご存知の通り、日本は4つのプレート上にあり、どこで地震が起きてもおかしくないと言われています。政府の地震調査研究推進本部が発表した、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の高い地域に首都圏は該当しています。

震度6弱は、立っていることが困難な状態です。寺田寅彦（てらだ とらひこ）という科学者が残した「天災は忘れた頃にやってくる」ということばがあります。東京では99年間大規模な地震は起きていません。こんなに長く東京が大地震に見舞われていないということは、大地震がいつ起きてもおかしくないと考えて、自分の命を守る心構えをしなければなりません。



震災とは地震によっておこる災害ですが、場所・時間によってその被害は変わります。1923年の関東大震災では、震度6強から7で10万人以上が犠牲になりましたが、その9割が焼死でした。2011年の東日本大震災では、皆さんも記憶にあると思いますが、東京は震度5弱～5強で、東北では震度7、津波により9割が溺死でした。地震によって起こる被害は様々です。

そのためにも、備えと対応をしっかりとしておくことが大切です。

備えについては、避難場所・連絡方法の確認・ハザードマップを利用して住んでいる地域を知ることなど、家族での話し合いをしてください。同時に家具の転倒防止・非常持ち出しの備えも確認できればと思います。

そして実際に起きた時の対応ですが、地震速報で事前に準備できるときは安全な場所への退避、突然の揺れには、できるだけ安全な場所で揺れが収まるまで待つこと。その後は、家や屋外などそれぞれの場所の指示に従って適切な行動をしてください。また、ラジオなどの正確な情報も確認してください。登下校中についても、避難できる場所を確認しておいてください。なお、都内の私立学校では協定を結んでおり、どの学校に避難をした場合でも情報が共有できるようになっていますので、避難場所の候補にしておいてください。

最後にお願いです。地震に対する備えと対応は、知識習得と訓練によってその力は向上します。普段から高い防災意識をもってください。そして、何よりも「自分自身の身の安全の確保」が最優先です。その後共助（きょうじょ）といった助け合いができます。

ぜひ9月1日の「防災の日」では、上記のことを考える日にしてほしいと思います。

校長 稲村 隆雄